阿武隈川上流遊水地群整備事業

令和元年東日本台風により阿武隈川流域全体で甚大な被害が発生したことを踏まえ、国土交通省では「阿武隈川緊急治水対策プロジェクト」に基づき、玉川村、鏡石町、矢吹町に、約350ヘクタール（東京ディズニーランドの約７倍）に及ぶ大規模な遊水地群（阿武隈川上流遊水地群）の整備を進めています。

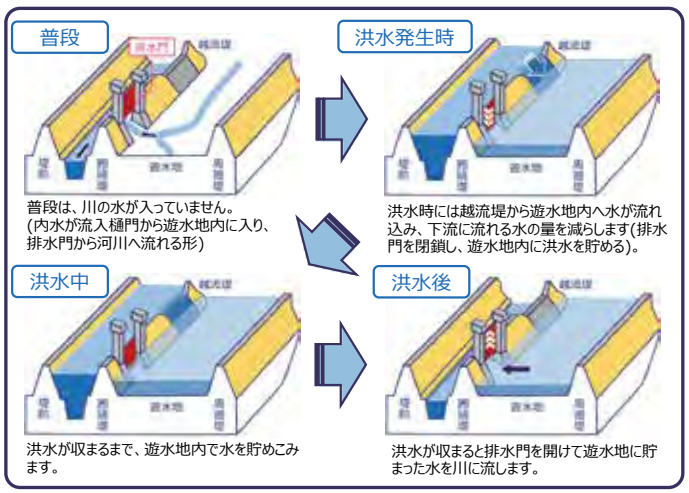
遊水地は、洪水で川の水が増えた際、その水を一時的に貯め込み、川の水位を下げることで下流域における浸水被害等を軽減するものであり、阿武隈川上流遊水地群の整備により、郡山市の阿久津水位観測所（富久山町）付近では、河道掘削による効果と合わせて洪水時に約1.0m水位が低下することが見込まれています。

当初、令和10年度の完成を目指していた本事業は、令和７年９月に事業期間が５年間延長され、現在、令和15年度の完成に向け、用地協議や家屋の集団移転代替地整備、架け替えする橋梁や排水門の工事が進められています。また、完成後の遊水地内利活用の実現に向け、阿武隈川上流遊水地群地内利活用検討会（国、県、３町村及び有識者等）を中心に、地域振興にも資する活用方法の検討が進められており、農地利用に関する検討では、完成後と同じ地盤を使って水稲の試験栽培も行われています。

遊水地群全体計画図（令和８年５月現在）



遊水地のしくみ



家屋集団移転先（代替地）整備

村内には、国の事業により、原作田代替地（竜崎字原作田地内、26区画）と稲荷畷代替地（小高字稲荷畷地内、10区画）が整備され、稲荷畷代替地では、令和８年12月の完成に向け、令和８年８月現在、上下水道や道路等の整備が進められています。


10区画が整備される稲荷畷代替地（R8.8撮影）